

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式										
E1421015	ピアノ (Piano)																
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員											
選択	1	4	教育学部 平成31年度以前入学生用			氏名 田中 星治 E-mail tanaka@oita-u.ac.jp 内線 7618											
授業の概要	ソナタもしくはそれ以上のレヴェルの作品の演奏法を習得し、高度な実技能力を身につける。																
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1	中学校の音楽教員に必要なより高度なピアノの技法を習得できる																
目標2	歌唱教材の伴奏に必要な高度な技法を習得できる。																
目標3																	
目標4																	
目標5																	
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
授業の内容																	
1	ガイダンス																
2	楽曲分析を行う(1)モチーフについて																
3	楽曲分析を行う(2)和声について																
4	ピアノ技法における表現とのかかわりについて(1)旋律について																
5	ピアノ技法における表現とのかかわりについて(2)リズムについて																
6	作品の演奏解釈(1)時代様式																
7	作品の演奏解釈(2)楽曲構成																
8	演奏表現の効果的な奏法について(1)打鍵について																
9	演奏表現の効果的な奏法について(2)ペダルについて																
10	ピアノ演奏における身体の脱力について(1)腕全体																
11	ピアノ演奏における身体の脱力について(2)上半身																
12	ピアノ演奏における呼吸について(1)胸式呼吸																
13	ピアノ演奏における呼吸について(2)腹式呼吸																
14	歌唱教材実践における伴奏とのアンサンブルについて																
15	実技試験に向けてのまとめ																
ラーニング	A:知識の定着・確認	ピアノ演奏を通して、音楽表現に必要な演奏技術を身につける。さらには楽曲の表現の可能性を模索し、作品を通して受講者の主体的な演奏技法を引き出すことを目指す。					工夫 その他	ピアノ実技なので、個人指導、およびグループ指導を行い、学生とのディスカッションの中で、解釈の可能性を探る。									
タイム	B:意見の表現・交換																
メソッド	C:応用志向																
グループ	D:知識の活用・創造																
時間外学習の内容と時間の目安	準備	与えられた課題を前もって準備する。ハノンや、指のトレーニングのための教材を活用すること。(10h)															
	事後	授業で行った内容を再確認し、事後の練習に生かす。(10h)															
教科書	ピアノ作品の楽譜、歌唱教材(出版社は問わない)																
参考書	そのつど指定する。																
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10					
	授業への取り組みに着ける。	40%															
	期末試験	60%															
評価について	評価については、具体的な到達目標で掲げた内容について実技試験で評価する。到達目標に向けた準備の過程についても、評価の中に盛り込む。																
注意事項	毎日の練習の積み重ねが必要。																
備考																	
リンク																	
	URL																